

2012年度 第1回 鋼構造制振小委員会 議事録

- 1. 日時** 平成24年6月4日(月) 14時00分～17時00分
- 2. 場所** 建築会館
- 3. 出席者** 緑川光正、笠井和彦、加村久哉、木村祥裕、田中清、玉井宏章、中込忠男、引野剛、松岡祐一、山下哲郎、宇佐美徹(記録) (敬称略)
欠席:石井正人、井上一朗、金子洋文、髙高裕治(敬称略)
- 4. 配付資料**
- 01-01 2011年度 第31回 鋼構造制振小委員会 議事録(案)(宇佐美)
 - 01-02 鋼構造制震設計指針に関するメモ(緑川主査)
 - 01-03 小委員会設置申請書(緑川主査)
 - 01-04 刊行企画書(緑川主査)
 - 01-05 3章抜粋 図3.4.4 疲労試験結果(加村委員)
 - 01-06 図4.6.1 せん断パネルダンパーの設計フロー(玉井委員)
 - 01-07 鋼構造制震設計指針(仮題)(笠井委員)
 - 01-08 3. 座屈拘束ブレース(加村委員)
 - 01-09 4. せん断パネル(玉井委員、田中委員)
 - 01-10 5. 鉄骨梁柱からなる架構の力学特性と設計(木村委員)
 - 01-11 第20回 鋼構造制震小委員会 解析WG 議事録(笠井委員)
 - 01-12 2011年度 第17回 鋼構造制震小委員会 架構設計WG 議事録(案)(笠井委員)
 - 01-13 2012年度 第1回 鋼構造制震小委員会 編集WG 議事録(案)(笠井委員)
 - 01-14 日本建築学会 執筆要領(緑川主査)

5. 議事内容

- (1) 資料01-1に基づき前回議事録の確認がなされた。
- (2) 資料01-2～01-4に基づき緑川主査より指針発刊までのスケジュール等について説明がなされた。
 - ・ 次回8月の小委員会より、順次査読を始め、2013年3月に執筆終了予定。(緑川主査)
 - ・ 鋼構造運営委員会後の修正期間が取れていないので、修正が多いと発刊までのスケジュールが伸びる。(緑川主査)
- (3) 資料01-5、01-8に基づき加村委員より3章の図3.4.4疲労試験結果について修正した内容について説明がなされた。
 - ・ 図中の式を修正し、ばらつきの幅は対数軸に合わせて、 $2\sim 1/2$ と $3\sim 1/3$ の範囲を表示した。(加村委員)

- ・ 、 の有効数字は2桁程度に丸めてはどうか。(中込委員)
 - ・ 載荷プロトコルと設計例に関しては次回の小委員会で説明する。(加村委員)
- (4) 資料 01-6、01-9 に基づき玉井委員と田中委員より4章の変更点について説明がなされた。
- ・ p.44 の大振幅後に小振幅を受ける場合の疲労特性に関する記述に関しては、中込委員と調整する。(玉井委員)
 - ・ p.11、4.2.8式(せん断パネルのフランジのせん断力負担)の取り扱いに関しては金子委員と調整する。(玉井委員)
- (5) 資料 01-07 に基づき笠井委員より指針の目次について説明がなされた。
- ・ 9章の鋼材ダンパーによる耐震補強法は削除する。(笠井委員)
 - ・ 低層建物等で時刻歴応答解析を用いないで設計する手法に関しては、付録に記述する。(笠井委員)
 - ・ 2章の鋼材の力学特性は7章の解析モデル手法と関連するため、調整する。(笠井委員)
 - ・ 6章のタイトル、8章の簡易時刻歴解析モデルの項目は見直すこと。(緑川主査)
 - ・ 付録のテーマストラクチャーは、7章、8章で使用している。(笠井委員)
- (6) 資料 01-10 に基づき木村委員より5章の変更内容について説明がなされた。
- ・ 図5.5の μ は、最大耐力時から求めている。(木村委員)
 - ・ 制振構面と非制振構面の梁の部材ランク、横座屈の取り扱いはWGで引き続き検討する。(木村委員)
 - ・ ブレース構面の梁の軸力は解析ではなく別途計算する。(木村委員)
- (7) 資料 01-11～13 に基づき笠井委員より各WGの進捗状況について説明がなされた。
- ・ 減衰の取り扱いについては付録に記述する。(笠井委員)
- (8) 指針執筆に関して(資料 01-14)
- ・ フォーマットは緑川主査より各委員に送る。
 - ・ 記号表、索引は作成する。
 - ・ 参考文献を章毎とするか節毎とするかは、次回以降に決める。
 - ・ 写植を依頼する場合は、発刊まで半年ほど必要となる。

6. 今後について

- ・ 次回は2012年8月3日(金)、14:00より建築会館で実施。